

B チャレ（提案公募型協働事業）【平成 30 年度】報告書

提出日	平成 31 年 4 月 10 日	記入者	木村 有花
団体名	クリエイターチーム カラフル <input checked="" type="checkbox"/> 任意団体 <input type="checkbox"/> NPO 法人 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> その他()		
事業名	中学生と専門家のコラボレーションによるまちの情報誌の制作活動		
協働団体	株式会社カラーコード		
自団体 および 協働団体 の 役割分担	自団体：活動全体の運営、中学生の取りまとめ 中学校：参加者募集協力、活動参加促進協力、提出物の取りまとめ、成果物を配る プロのクリエイター（デザイナー等専門家）：中学生向けにレクチャー指導 取材先：取材の承諾、取材協力、校正の協力、成果物設置協力 中学生：活動の参加（レクチャー、取材、記事作成、完成発表会）		
担当者名	木村 有花	役職等	
部門 (1か2 いずれか ○)	① 地域活性化部門 2 課題解決部門((1)～(4)のいずれかに○) (1) 住民が居住地域の活動へ参画する仕組みづくりの活動 (2) 地域に密着した活動拠点開発に関する活動 (3) ミドル・シニアが活躍できる場や機会の創出に関する活動 (4) 単身高齢者でも安心して暮らせる仕組みづくりの活動		
目的 地域のどんな 課題を解決し たいかを明記	この事業は、中学生が自分たちの視点で発信する文京区のローカルマガジン「MITAMIYO!! Teens」を作るために、クリエイティブの力を養うプロジェクトである。文京区の中学校に通う中学生とクリエイティブのプロから表現する技術（文章・イラスト・写真・デザインなど）を学び、取材したものを一冊のローカルマガジンとしてまとめ発行する事業である。 今回中学生を対象とすることで、さらに深まる着目点が3点ある。 ①人材育成：次世代を担う中学生の創造力を高め自立した人に育てる ・ローカルマガジン制作の場を、中学生にとっての地域活動との関わりを体験する場と捉える。クリエイティブの根幹となる自分の感情と向き合い、表現する力を身に着けることで、これからの社会や地域で活躍していくうえで重要となるキャリア教育を行う。 ・イラストや写真、ものをつくるのが好きという中学生がクリエイティブのプロから技術を学ぶことで、創作することを追求していく気持ちを高める。 ・「人」により着眼点を置くことができ、魅力を落とし込むことができる。文京区に住む人、働く人に焦点を絞ることで中学生自身の地域への関心、職業への関心が高まる。さらに、読		

	<p>み物としての魅力が深まるだろう。</p> <p>②シビックプライド：地域を誇りに思い日本のことを誇りに思う気持ちの醸成 ・シビックプライドを高める。これは、どこで生まれて育ったとしても、生まれた所の地域や育ったところの地域、住んでいる地域に関心を寄せ、地域共同体と言うコミュニティが存在している事を意識できる人間に育ってもらえるのではないだろうか。</p> <p>③多世代交流：様々なコミュニケーションによりローカルマガジン制作を行う ・この制作活動を通して、都市部の地域コミュニティの弱体化等の課題に対するひとつの対策として、地域内でのコミュニケーションを活性化させることが有益であると考え。学校や家庭だけではなく、取材先の方やクリエイティブのプロ＝第3次の関係性と交わることで、子どもたちが新たなエンパワーメントされ、社会的な波及効果が期待できる。 ・中学生と斜めの関係となる「おせっかいさん」の話聞く機会や交流の機会をもつ。斜めの関係とは、子どもにとって保護者や教師との上下の関係や、友人との横の関係とは異なってくる。大人であるが、子どもに対して真摯に対応してくれる、子どもにとって斜め上関係が生まれ成熟することで一般的には地域との関わりが希薄化する中学生期において、刺激になるだろう。</p> <p>文京区という地域に対し、シビックプライドを持ってこのまちが好きだから住んでいるという人を増やしていくには、小学生の MITAMIYO!!に加えて、中学生版のローカルメディア「MITAMIYO!! Teens」を協働で作ることが必要になる。そのため、モデルづくりを行いたいと考える。</p>
事業内容	<p>専門家とのコラボレーションにより、中学生オリジナルの情報誌を制作。 中学生ならではの視点や感性で客観的、主観的に店、企業、地域を取材する。 制作に必要なスキルは専門家（編集者、カメラマン、ライター）からレクチャーを受ける。</p> <p><①レクチャー：活動について・取材について学ぶ>12/14（金）16:35～19:00@フミコム ・概要説明・自己紹介・文京区を知る ・エディター藤井さんによるレクチャー「取材について学ぶ」・WS「仲間について知る」</p> <p><②レクチャー：取材先を決める>12/21（金）16:30～18:45@フミコム ・取材に行きたい場所を机ごとに発表 ・ペルソナを考えそれに沿った取材先を考える ・机ごとに発表し、取材先の候補選定</p> <p><③レクチャー：写真の撮り方>1/17（木）16:30～18:00@フミコム ・カメラマン八幡さんによるレクチャー「写真の撮り方・写真とは」 ・WS「今日コレイチ写真を撮ってみる」・八幡さんより各写真アドバイスをもらう</p> <p><④レクチャー：イラストの描き方、文章の書き方>1/25（金）16:30～19:00@フミコム ・デザイナー浅井によるレクチャー「イラストの描き方・楕円と逆さから絵を描いてみる」 ・ライター有川さんによるレクチャー「記事の書き方・文章のおこし方」</p>

	<p><⑤取材期間：合計9カ所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶんねこの会 1/28 16:30～18:00@広報担当勝藤さんのご自宅 ・IENA 2/1 17:30～18:30@現地 ・妻戀神社 2/2 11:00～12:30@現地 ・NEC ネットエスアイ 2/4 15:00～17:15@現地 ・b-lab 2/5 17:00～18:30@現地 ・東大図書館 2/7 16:30～17:30@現地 ・B-PUMP 2/14 16:45～18:15@現地 ・TeNQ 2/15 16:30～18:00@現地 ・今川焼千駄木 2/16 11:00～11:45@現地 <p><⑥記事制作>2/16(土) 14:00～17:30@フミコム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当の振り分け(各取材先の文章、イラスト)・ページデザインを考える ・各自制作を行う <p><中学生から制作物の回収>2/21(木)～3/8(金)</p> <p><ローカルマガジンのデザイン・校正・入稿>3/8(金)～3/22(金)</p> <p><⑦完成発表会>3/27(水) 10:00～12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WS「完成したローカルマガジンをもっと良くするには?」・発表 ・総括・来場者への挨拶・集合写真撮影
<p>協働団体 or 利用者 の声</p>	<p>参加中学生の感想まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロの話を聞いたことで、好きな分野も苦手な分野もたくさん学びがあった。 ・特に、写真の撮り方を教わり写真を撮ることがもっと楽しくなった。知らなかったコツを教われ普段から実践してみたい、もっと知りたい。(写真の撮り方レクチャーへの高評価が最も多かった) ・文京区という地域への関心が高まった、もっと色んなところに取材してみたい。 ・取材の時にはHPなどには載っていないことを質問して聞き出すことが大事と知り、それを実践ができた。 ・記事制作に参加できて嬉しかったけど、時間があまり取れず満足のいくものが出来なかった。またやりたい。 ・ローカルマガジンの作るまでの流れがわかった。パソコンでの編集もしてみたい。

<p>協働による 効果</p>	<p>○中学校との協働 中学生を参加対象とした活動は初めてであり、30年度までに行ってきた小学生を参加対象としている場合と異なる課題が複数あった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者募集方法においては、参加をしてもらいたいターゲット層まで情報を届けるために、部活動の顧問や教育熱心な学校の先生に直接説明を行い、理解を得ることで、中学生に参加募集の情報を届けることができた。 ・活動参加を促すことについては、小学生の場合保護者が連絡窓口になっていることに対し、半数以上が中学生本人とのやりとりであったため学生個人の責任により参加の有無が判断されていた。そのため、連絡が取れないことや当日の欠席という場合があったが、中学校の先生を巻き込むことによって参加を促してもらえる様になった。 ・記事制作物の回収において、中学校の先生に集めてもらい一度に回収することができた。期限までに提出ができなかった中学生においても引き続き先生から声かけをお願いした。 <p>○取材先との協働 読者ターゲットを中学生女子と定め、ペルソナに沿った取材先を中学生と検討した。その中から取材先に企画趣旨説明を行い、取材交渉を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材の承諾においては、企画に賛同いただいた取材先にご協力をいただいた。 ・取材当日の準備と対応については、取材当日の資料作成や人材の手配、時間の確保などを依頼した。普段入ることのできない企業や施設を見学し取材することで、中学生の刺激に繋がった。 <p>・取材先（9か所） ぶんねこの会、文京区青少年プラザ b-lab、東京大学総合図書館、NEC ネットエスアイ株式会社 本社、宇宙ミュージアム TeNQ、B-PUMP TOKYO AKIHABARA、IENA、今川焼 千駄木、妻戀神社、</p> <p>○フミコムとの協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生参加者募集の際には、フミコムが持つパイプを使わせていただき区立中学校へチラシの配布、中学校へのアポイントメント、PTA 联合会やフミコムイベントでの配布等行うことができた。 ・取材依頼の際には、社会福祉協議会の助成活動ということで取材を引き受けてもらうことができた取材先があった。助成活動でない場合も区の後援活動の申請が必要である。 ・C-base を利用することで、施設借用にかかる経費を削減することができた。いつも同じ場所で開催することで、中学生にとっても迷うことなく活動に参加することができた。
<p>事業成果 および 今後の活 動予定</p>	<p>【成果】</p> <p>○募集対象とした一定層の中学生に対して、プロのクリエイター・取材先担当者・カラフルスタッフそれぞれの間に斜めの関係性を構築することができた。特に、中学生とプロのクリエイターとの間には憧れの様な関係が生まれた様に思える。今回の一回限りの交流では憧れに留まってしまったが、レクチャーの複数開催やより実践に伴った講義を行うことにより、子どもにとって真摯に対応してくれるカッコイイ大人という存在が生まれるように思える。また、NEC ネットエスアイの鈴木さんやb-labの白田さんの様に、中学生の声に熱心に耳を</p>

傾けアドバイスを多く与えてくださる様な大人の存在を今後も増やしていきたいと考える。

○区立中学校の全てに案内したものの、参加者が定員に満たず日程を再調整した。

「参加費を無料」、「参加対象者を美術系の部活の生徒に絞って周知」に変更して、再度区立を含む区内の中学校に案内した結果、東京学芸大学附属竹早中学校、郁文館中学校の学生が参加。

○完成したMITAMIYO!! Teensを見て終わりではなく自分たち自身で具体的に振り返って評価することにより、自分ゴトとしてローカルマガジンを捉えてもらうことができたと感じる。次回の活動に参加もしくは創作活動を行っていく際に、何かに取り組む際に追及していくことの楽しさを感じて貰えたアンケートから読みとくことができた。

○9か所の取材先に行き、3,000冊のローカルマガジン「MITAMIYO!! Teens」を発行することができた。

【モデルづくり】

30年度までに小学生を対象として同事業を実施してきたが、中学生を参加対象として行うことで異なる点が多々発生しそれらを改善しながら事業を進めることができたため、モデルづくりに寄与することができた。具体的には以下、○項目の理由がある。

○参加者募集方法について

考察：

第一段の参加者募集を行った際には、中学校にチラシを配ってもらうだけで参加者を集めることが出来ず延期することになってしまった。その際の反省点は下記の通りである。

・Bチャレ、という社会福祉協議会の活動助成だったが、教育委員会へ説明したにも関わらず、区立中学校は「参加費が有料」という理由で、校長の判断により生徒への配布を拒否する学校もあった。

・参加費の使い道、何をしても何ができるのかが伝わっていなかった。

・“中学生”という広いターゲット層の場合、夏休みの活動は難しいと判断される。

・部活や塾などの予定が分からないため“参加したい・興味がある” < “参加できない(だろう)” という認識でとらえられるため、そもそも「チラシを読む、参加を検討する」という段階に進まない。

・文林中学校には、副校長と話をしたことで、各クラス(学年)に直接説明をする機会を得て説明したが、参加には至らなかったことを踏まえ、中学生にとってのベネフィットに焦点が絞れていなかった。

・当団体だからこそできるウリに特化が出来ていなかった。

今後気を付ける点：

募集方法については、ターゲット層の狙いを定めて声かけを行うことが重要であることがわかった。今回の制作に参加した学生の学校をはじめ、関心の高そうな部活動の顧問、教育熱心な学校に絞りさらに担当教員に直接連絡を取り、まずは先生に理解を得ることで生徒に声

かけをお願いした。また、直接学生に声かけも行った。

チラシ内容については、中学生にとってのベネフィットに焦点を絞り、内容と募集ターゲット層を明確化させた。

○取材依頼内容について

現状：

読者ターゲットを中学生女子と定め、ペルソナに沿った取材先を中学生と検討した。その中から取材先に企画趣旨説明を行い、取材交渉を行った。レクチャーの際、中学生から取材選定理由を公表してもらっていたが、曖昧なところや理由が少ないものがほとんどであった。その結果、中学生の想いを汲み取ろうとしているものの、あくまで大人が考えた取材依頼内容になってしまった。

今後気を付ける点：

取材に行く前ではなく取材依頼を行うタイミングで、取材先について調べ聞いてみたいこと等を中学生から意見をまとめる時間が必要だと感じた。

○取材当日の動きについて

現状：

取材内容のすり合わせを行うものの、具体的な動きの確認や取材内容の確認が足りなかった。想定よりも取材時間がかかってしまうことが多くなってしまった。

今後気を付ける点：

具体的なタイムスケジュール（質問の数や見学を行う場合の細かなスケジュール）を作るために、取材対応経験がある取材先においては資料提供の依頼や、実際に動きの確認を依頼したいと思う。

○取材内容について

現状：

取材前に質問項目の提出を求められた場合のみ提出した。小学生の場合、事前に質問項目を検討してきてもらよりもその場で生まれた疑問を投げかけることを行っていた。中学生には各自インターネット等を利用し質問項目を考えてきてもらうよう声かけを行っていたが、それがあまり達成されなかった。

今後気を付ける点：

下調べの時間や質問項目の準備をする時間を設けることが必要であると感じ、中学生ならばそれが可能であることが分かった。

○中学生との連絡の取り方について

現状：

半数以上の中学生が自分のメールアドレスから連絡を取っているため、中学生個人の責任により参加の有無が判断されていた。そのため、連絡が取れないことや当日の欠席という場合があった。

今後気を付ける点：

簡潔なメール内容を心掛け、返信必須であることを記載する。更に、中学校の先生を巻き込み参加を促してもらう。また、メール以外の共有連絡ツール等検討する余地がある。

○日程調整について

現状：

講談社の取材日と学校行事と重なり直前で参加できない人が複数出てしまい、前日の時点で参加者が2名となってしまった。更に、2名の中学生が当日のキャンセルにより講談社取材が中止となり先方に多大なるご迷惑をおかけしてしまった。

今後気を付ける点：

取材先を含めた活動日は、学校の年間行事予定とすり合わせを怠らず、中学校への確認を欠かさずに行う。中学生自身が参加すると手を挙げている場合でも学校行事を把握しきれていない可能性が高いため、中学校との連携を図る。

○中学生との編集会議の開催の検討について

現状：記事制作の際、ただ文章とイラストを書くだけではなく、伝えたいことのグループ化と記事デザインを考えてもらった。その後、それらを元にデザイナーがデザインを行った。完成発表会の際、記事をより良くするための意見が数多く上がったため、ライターである中学生とデザイナーとで編集会議を行うことを検討する必要があることが分かった。

【成果物等配布先】

○中学生募集チラシの配布先[第一段]

第三中学校、第六中学校、第八中学校、第九中学校、第十中学校、文林中学校、茗台中学校、本郷中学校、音羽中学校、東京都立小石川中等教育学校、東京学芸大学附属竹早中学校、郁文館中学校、b-lab、真砂中央図書館、小石川図書館、湯島図書館、水道端図書館、アカデミー推進課、区民部経済課、みどり公園課、地域連携ステーション フミコム、PTA 联合会、協力者、茗荷谷インフォメーション

○中学生募集チラシの配布先[第二弾]

文林中学校、第十中学校、東京学芸大学附属竹早中学校、郁文館中学校、お茶の水女子大学附属中学校、地域連携ステーション フミコム

○MITAMIYO!! Teens 配布先（予定を含む）

中学生、完成発表会参加者、ぶんねこの会、文京区青少年プラザ b-lab、東京大学総合図書館、NEC ネットエスアイ株式会社 本社、宇宙ミュージアム TeNQ、B-PUMP TOKYO AKIHABARA、IENA、今川焼 千駄木、妻戀神社、
区長、シビックセンター観光案内所、アカデミー推進課、児童青少年課、区民課、区民部経済課、教育委員会、地域連携ステーション フミコム、
真砂中央図書館、本郷図書館、小石川図書館、本駒込図書館、水道端図書館、目白台図書館、千石図書館、湯島図書館、根津図書室、大塚公園みどりの図書室、
東京学芸大学附属竹早中学校、郁文館中学校、お茶の水女子大学附属中学校、第一中学校、第三中学校、第六中学校、第八中学校、第九中学校、第十中学校、文林中学校、茗台中学校、本郷中学校、音羽中学校、
茗荷谷インフォメーション、伊豆の KURURA 制作実行委員会、プロのクリエイター、事業を応援してくれる方々、今後更に活動を深めていくための営業用（次回募集の際中学生への配布、取材先への配布、協力者への配布）、他

【今後の活動予定】

- ・小学生と作る MITAMIYO!! Vol. 4 の発行
- ・中学生と作る MITAMIYO!! Teens Vol. 2 の発行
- ・COLOMAGA Project を広めていくためのサポーター制度の構築
- ・新たに COLOMAGA Project として別の地域で活動を広めていく仲間を増やす

【31年度の資金調達（予定）】

- ・独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成活動・・・406,000円
 - ・公益財団法人キリン福祉財団 キリン・地域のちから応援事業・・・300,000円
 - ・活動サポーター寄付金・・・300,000円
- 合計 1,006,000円

※別紙1：事業スケジュール 報告

※別紙2：収支決算報告

※別紙3：関係者マップ 報告（提案時の内容と比較できる状態）

※別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※別添2：この事業の様子が分かる写真のデータ（10枚以内）

別紙1:事業スケジュール 報告

作成日:平成31年 4月 17日

Bチャレ(提案公募型協働事業)【平成30年度】

団体名: クリエイターチーム カラフル

実施内容	平成30年									平成31年4月10日				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
フミコムとの打合せ	打合せ	●22:企業貢献ネットワークで事業説明			7/26、8/18、9/14 打合せ									
文京つながるメッセでの活動紹介								●17:活動見本市						
中学校の先生とのやりとり			夏休み開催時のチラシ配布			27:お茶中打合せ	5:竹早・郁文館打合せ	中学生参加者斡旋の依頼				宿題回		
中学生参加者とのやりとり							申込み期間・参加者対応			活動のお知らせ、出欠調整、取材先参加希望調整、記事担当分けの相談				
取材先とのやりとり										取材依頼		校正		
取材										取材受け入れ期間(1/28~2/16)				
取材										取材:合計9か所(1/28~2/16)				
記事制作											16:記事制作	宿題提		
記事制作												デザイン・校正・入		
取材									14:取材について学ぶ	21:取材先を決める	17:写真の撮り方	21:文章・イラストの書き方	27:完成発表会	

別紙2: 収支決算報告

作成日: 平成31年 4月 15日

Bチャレ(提案公募型協働事業)【平成30年度】

団体名: クリエイターチーム カラフル

収入 553,620 円

費目	決算額	積算根拠
「Bチャレ」助成金	500,000 円	地域活性化部門
自己資金	53,620 円	

支出 553,620 円

費目	決算額	積算根拠
人件費 交通費	288,764 円	11,032 講師謝金・交通費・振込み手数料(藤井) 13,234 講師謝金・交通費・振込み手数料(八幡) 11,318 講師謝金・交通費・振込み手数料(有川) 12,838 スタッフバイト代・交通費・振込み手数料(鈴木) 14,806 円 スタッフバイト代・交通費・振込み手数料(青山美咲) 5,536 スタッフバイト代・交通費・振込み手数料(青山広平) 200,000 スタッフ人件費一式(木村) 10,000 冊子デザイン協力謝金(成田) 10,000 冊子デザイン協力謝金(西山)
印刷費	188,140 円	8,860 チラシA4,3000部[第一弾] 4,000 チラシA4,100部[第二弾] 116,810 冊子印刷(2,000部) 53,250 円 冊子印刷(1,000部) 1,200 取材依頼資料(10セット) 2,440 配布物等印刷一式[カラー] ※1 1,580 配布物等印刷一式[モノクロ] ※2
通信運搬費	23,250 円	120 企画書郵送(竹早) 360 チラシ郵送(b-lab) 890 チラシ郵送(図書館) 1,020 円 レターバックプラス2枚 720 レターバックライト2枚 140 企画書郵送(跡見学園中) 20,000 冊子郵送代[予定]
保険	9,256 円	7,756 円 行事保険 1,500 1DAYレジャー保険
取材費	10,440 円	120 IENAの食パン 9,720 円 B-PUMP体験参加費 600 今川焼購入代
雑役務費	33,770 円	4,518 画材一式(筆・絵の具・紙パレ) 1,896 包装緩衝材プチプチ 21,870 校正費一式・振込み手数料 924 円 養生テープ2巻 934 吊り下げ名札50枚入 528 厚口画用紙 3,100 バインダー

<p>※1 [参考] カラー印刷(20円)</p>	<p>2,440 円</p>	<p>200 名札の用紙 1,200 12/14レクチャー資料2種30枚 600 円 1/25レクチャー資料30枚 200 取材スケジュール10枚 240 3/27レクチャー資料12枚</p>
<p>※2 [参考] モノクロ印刷(4円)</p>	<p>1,580 円</p>	<p>240 12/21レクチャー資料60枚 960 円 1/25レクチャー資料240枚 80 取材スケジュール20枚 300 その他レクチャー関連書類</p>



